

# 第67回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結株主資本等変動計算書  
連結計算書類の連結注記表  
計算書類の株主資本等変動計算書  
計算書類の個別注記表

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

## トーカロ株式会社

本内容は、法令および当社定款第15条の定めに基づき、当社ホームページ (<https://www.tocalo.co.jp/>) に掲載することにより株主の皆様に提供しております。

# 連結株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から  
平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |           |            |          |            |
|-------------------------|-----------|-----------|------------|----------|------------|
|                         | 資 本 金     | 資本剰余金     | 利益剰余金      | 自 己 株 式  | 株主資本合計     |
| 当 期 首 残 高               | 2,658,823 | 2,293,504 | 26,116,841 | △773,599 | 30,295,569 |
| 当 期 変 動 額               |           |           |            |          |            |
| 剰 余 金 の 配 当             |           |           | △1,405,888 |          | △1,405,888 |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 |           |           | 4,836,976  |          | 4,836,976  |
| 自 己 株 式 の 取 得           |           |           |            | △377     | △377       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |           |           |            |          |            |
| 当 期 変 動 額 合 計           | —         | —         | 3,431,088  | △377     | 3,430,710  |
| 当 期 末 残 高               | 2,658,823 | 2,293,504 | 29,547,929 | △773,976 | 33,726,280 |

|                         | その他の包括利益累計額      |                    |                       | 非支配株主持分   | 純資産合計      |
|-------------------------|------------------|--------------------|-----------------------|-----------|------------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | 為 替 換 算<br>調 整 勘 定 | その他の包括利益<br>累 計 額 合 計 |           |            |
| 当 期 首 残 高               | 42,629           | 309,167            | 351,796               | 1,605,500 | 32,252,866 |
| 当 期 変 動 額               |                  |                    |                       |           |            |
| 剰 余 金 の 配 当             |                  |                    |                       |           | △1,405,888 |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 |                  |                    |                       |           | 4,836,976  |
| 自 己 株 式 の 取 得           |                  |                    |                       |           | △377       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) | △909             | 96,845             | 95,935                | 360,295   | 456,231    |
| 当 期 変 動 額 合 計           | △909             | 96,845             | 95,935                | 360,295   | 3,886,942  |
| 当 期 末 残 高               | 41,720           | 406,012            | 447,732               | 1,965,796 | 36,139,809 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連 結 注 記 表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

## 1. 連結の範囲に関する事項

### ①連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 5 社
- ・連結子会社の名称 日本コーティングセンター株式会社  
東華隆(広州)表面改質技術有限公司  
東賀隆(昆山)電子有限公司  
漢泰国際電子股份有限公司  
TOCALO USA, Inc.

### ②非連結子会社の状況

- ・非連結子会社の名称 PT. TOCALO SURFACE TECHNOLOGY INDONESIA
- ・連結の範囲から除いた理由

非連結子会社の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

## 2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・非連結子会社の名称 PT. TOCALO SURFACE TECHNOLOGY INDONESIA
- ・関連会社の名称 NEIS & TOCALO (Thailand) CO., Ltd.  
PT. TANAKA MACHINERY
- ・持分法を適用しない理由

持分法を適用しない会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、東華隆(広州)表面改質技術有限公司、東賀隆(昆山)電子有限公司、漢泰国際電子股份有限公司及びTOCALO USA, Inc. の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ・有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(利息法)

その他有価証券

時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

###### ・たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

原材料、貯蔵品 移動平均法

仕掛品 個別法

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- ・有形固定資産 当社及び国内連結子会社については、主として法人税法の規定に基づく(リース資産を除く) 定率法を採用し、在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び運搬具 3～10年

- ・無形固定資産 定額法を採用しております。

(リース資産を除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

- ・リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

- ・貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ・賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

・退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、発生時に全額費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

・重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。また、外貨建その他有価証券は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は在外子会社の会計期間に基づく期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

・消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、「流動負債」の「支払手形及び買掛金」、「未払金」及び「未払費用」に含めていた「電子記録債務」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

(会計上の見積りの変更)

当社は従来、たな卸資産の評価基準について、期末時点における仕掛品を一定の進捗率に基づいた製造原価と販売費用を加味した見積原価のうち損失が見込まれるものについて正味売却価額まで帳簿価額を切り下げた価額を連結貸借対照表価額としておりましたが、仕掛品に係る収益性低下の事実をより適切に財政状態および経営成績に反映させるため、当連結会計年度において直近の受注損失実績額に基づいて算定する方法に変更することといたしました。

この結果、従来の方法に比べて、当連結会計年度の連結貸借対照表の仕掛品の帳簿残高が327,433千円増加し、売上総利益、営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益はそれぞれ327,433千円増加しております。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 23,787,141千円

2. 貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は、次のとおりであります。

|              |             |
|--------------|-------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 3,000,000千円 |
| 借入実行残高       | — 千円        |
| 差引額          | 3,000,000千円 |

(連結損益計算書に関する注記)

減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

| 場所                 | 用途                       | 種類               |
|--------------------|--------------------------|------------------|
| 旧本社<br>(兵庫県神戸市東灘区) | 遊休並びに売却予定資産<br>(旧本社事務所等) | 土地、<br>建物及び構築物、他 |

当社グループは、事業用資産については事業セグメントを基礎としてキャッシュ・フローを生み出す独立した区分でグルーピングを行っております。

旧本社(兵庫県神戸市東灘区)については、当連結会計年度において、新本社(兵庫県神戸市中央区)へ移転したことによって、遊休化したため減損処理を行ったものであり、当資産グループの固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(63,267千円)として特別損失に計上いたしました。その内訳は、土地26,480千円、建物及び構築物36,780千円、その他6千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は売却予定価額、税法規定等に基づく残存価額に基づき算出しております。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数

普通株式

63,200,000株

(注)当社は平成30年3月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。これに伴い発行済株式の総数が47,400,000株増加しております。

2. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額    | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-----------|----------|------------|------------|
| 平成29年6月23日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 721,944千円 | 47円50銭   | 平成29年3月31日 | 平成29年6月26日 |
| 平成29年10月31日<br>取締役会  | 普通株式  | 683,944千円 | 45円00銭   | 平成29年9月30日 | 平成29年12月4日 |

3. 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額    | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|-----------|----------|------------|------------|
| 平成30年6月28日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 911,923千円 | 15円00銭   | 平成30年3月31日 | 平成30年6月29日 |

(注)当社は平成30年3月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。このため、上記の1株当たり配当額は、株式分割後の金額となります。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金及び安全性の高い金融資産等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金(主として短期)及び設備投資資金(長期)であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

|                  | 連結貸借対照表<br>計上額 | 時価         | 差額      |
|------------------|----------------|------------|---------|
| (1) 現金及び預金       | 9,234,063      | 9,234,063  | —       |
| (2) 受取手形及び売掛金    | 11,654,651     | 11,654,651 | —       |
| (3) 有価証券及び投資有価証券 |                |            |         |
| ① 満期保有目的の債券      | 2,000,000      | 1,999,879  | △ 121   |
| ② その他有価証券        | 189,793        | 189,793    | —       |
| 資産計              | 23,078,508     | 23,078,387 | △ 121   |
| (1) 支払手形及び買掛金    | 1,434,706      | 1,434,706  | —       |
| (2) 電子記録債務       | 5,991,577      | 5,991,577  | —       |
| (3) 短期借入金        | 155,700        | 155,700    | —       |
| (4) 長期借入金        | 2,331,268      | 2,324,265  | △ 7,003 |
| 負債計              | 9,913,252      | 9,906,248  | △ 7,003 |

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

- (1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。



## 負債

### (1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、並びに(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

### (4) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社グループの信用状態は借入実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 非連結子会社株式及び関連会社株式(連結貸借対照表計上額826,180千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

## (1 株当たり情報に関する注記)

|            |         |
|------------|---------|
| 1 株当たり純資産額 | 562円12銭 |
|------------|---------|

|             |        |
|-------------|--------|
| 1 株当たり当期純利益 | 79円56銭 |
|-------------|--------|

(注) 当社は平成30年3月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

# 株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から  
平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |           |          |            |
|-------------------------|-----------|-----------|----------|------------|
|                         | 資 本 金     | 資 本 剰 余 金 |          | 利 益 剰 余 金  |
|                         |           | 資 本 準 備 金 | その他資本剰余金 | その他利益剰余金   |
| 当 期 首 残 高               | 2,658,823 | 2,292,454 | 1,050    | 24,815,547 |
| 当 期 変 動 額               |           |           |          |            |
| 剰 余 金 の 配 当             |           |           |          | △1,405,888 |
| 当 期 純 利 益               |           |           |          | 4,256,108  |
| 自 己 株 式 の 取 得           |           |           |          |            |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |           |           |          |            |
| 当 期 変 動 額 合 計           | —         | —         | —        | 2,850,220  |
| 当 期 末 残 高               | 2,658,823 | 2,292,454 | 1,050    | 27,665,768 |

|                         | 株 主 資 本   |             | 評価・換算差額等             | 純 資 産 合 計  |
|-------------------------|-----------|-------------|----------------------|------------|
|                         | 自 己 株 式   | 株 主 資 本 合 計 | その他有価証券<br>評 価 差 額 金 |            |
| 当 期 首 残 高               | △ 773,599 | 28,994,275  | 42,629               | 29,036,904 |
| 当 期 変 動 額               |           |             |                      |            |
| 剰 余 金 の 配 当             |           | △1,405,888  |                      | △1,405,888 |
| 当 期 純 利 益               |           | 4,256,108   |                      | 4,256,108  |
| 自 己 株 式 の 取 得           | △377      | △377        |                      | △377       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |           |             | △909                 | △909       |
| 当 期 変 動 額 合 計           | △377      | 2,849,843   | △909                 | 2,848,934  |
| 当 期 末 残 高               | △773,976  | 31,844,118  | 41,720               | 31,885,839 |

(注) 1 その他利益剰余金の内訳

(単位：千円)

|               | 別 途 積 立 金 | 繰越利益剰余金    | 合 計        |
|---------------|-----------|------------|------------|
| 当 期 首 残 高     | 6,220,000 | 18,595,547 | 24,815,547 |
| 当 期 変 動 額     |           |            |            |
| 剰 余 金 の 配 当   |           | △1,405,888 | △1,405,888 |
| 当 期 純 利 益     |           | 4,256,108  | 4,256,108  |
| 当 期 変 動 額 合 計 | —         | 2,850,220  | 2,850,220  |
| 当 期 末 残 高     | 6,220,000 | 21,445,768 | 27,665,768 |

2 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

## 1. 資産の評価基準及び評価方法

### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ・満期保有目的の債券

償却原価法(利息法)

- ・子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

- ・其他有価証券

時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

- ・原材料、貯蔵品 移動平均法
- ・仕掛品 個別法

## 2. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した  
(リース資産を除く) 建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物  
附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び車両運搬具 4～6年

- (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。  
(リース資産を除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間  
(5年)に基づく定額法を採用しております。

- (3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。
- (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
(退職給付見込額の期間帰属方法)  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。  
(数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法)  
数理計算上の差異は、発生時に全額費用処理しております。  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

### 4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理  
退職給付に係る未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。
- (2) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。また、外貨建その他有価証券は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。
- (3) 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

前事業年度において、「流動資産」の「受取手形」に含めていた「電子記録債権」を当事業年度より独立掲記しております。

また、前事業年度において、「流動負債」の「買掛金」、「未払金」及び「未払費用」に含めていた「電子記録債務」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

(会計上の見積りの変更)

当社は従来、たな卸資産の評価基準について、期末時点における仕掛品を一定の進捗率に基づいた製造原価と販売費用を加味した見積原価のうち損失が見込まれるものについて正味売却価額まで帳簿価額を切り下げた価額を貸借対照表価額としておりましたが、仕掛品に係る収益性低下の事実をより適切に財政状態および経営成績に反映させるため、当事業年度において直近の受注損失実績額に基づいて算定する方法に変更することといたしました。

この結果、従来の方法に比べて、当事業年度の貸借対照表の仕掛品の帳簿残高が327,433千円増加し、売上総利益、営業利益、経常利益および税引前当期純利益はそれぞれ327,433千円増加しております。

(貸借対照表に関する注記)

|                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額  | 19,196,017千円          |
| 2. 保証債務等           |                       |
| 金融機関からの借入金に対する保証債務 |                       |
| 東華隆(広州)表面改質技術有限公司  | 147,212千円             |
|                    | (全額が外貨建保証債務8,700千人民元) |
| 3. 関係会社に対する金銭債権・債務 |                       |
| 短期金銭債権             | 160,016千円             |
| 短期金銭債務             | 196,881千円             |

#### 4. 貸出コミットメント契約

運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当事業年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は、次のとおりであります。

|              |             |
|--------------|-------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 3,000,000千円 |
| 借入実行残高       | — 千円        |
| 差引額          | 3,000,000千円 |

#### (損益計算書に関する注記)

##### 関係会社との取引高

|           |     |           |
|-----------|-----|-----------|
| 営業取引      | 売 上 | 394,409千円 |
|           | 仕 入 | 405,864千円 |
|           | その他 | 104,220千円 |
| 営業取引以外の取引 | 収入分 | 242,031千円 |
|           | 支出分 | — 千円      |

#### (株主資本等変動計算書に関する注記)

##### 当事業年度の末日における自己株式の数

|      |            |
|------|------------|
| 普通株式 | 2,405,112株 |
|------|------------|

(注)当社は平成30年3月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

|             |           |
|-------------|-----------|
| 賞与引当金       | 235,680千円 |
| 貸倒引当金       | 8,640千円   |
| 退職給付引当金     | 134,690千円 |
| 役員退職慰労金     | 829千円     |
| たな卸資産評価損    | 158,773千円 |
| 合併引継土地等評価差額 | 51,130千円  |
| 投資有価証券評価損   | 13,906千円  |
| 関係会社出資金評価損  | 59,377千円  |
| 会員権評価損      | 17,538千円  |
| 一括償却資産      | 17,585千円  |
| 法定福利費       | 33,026千円  |
| 未払事業税等      | 65,886千円  |
| その他         | 54,741千円  |
| 繰延税金資産小計    | 851,806千円 |
| 評価性引当額      | — 千円      |
| 繰延税金資産合計    | 851,806千円 |

繰延税金負債

|              |           |
|--------------|-----------|
| その他有価証券評価差額金 | 19,430千円  |
| 合併引継土地等評価差額  | 211,220千円 |
| その他          | 2,909千円   |
| 繰延税金負債合計     | 233,560千円 |
| 繰延税金資産の純額    | 618,245千円 |

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社等

| 属性  | 会社等の<br>名称                | 議決権等の<br>所有割合         | 関連当事者<br>との関係                                              | 取引の内容 | 取引金額<br>(千円) | 科目 | 期末残高<br>(千円) |
|-----|---------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------|-------|--------------|----|--------------|
| 子会社 | 東華隆(広州)<br>表面改質技術<br>有限公司 | 直接<br>70.0%<br>(出資比率) | 溶射加工の技<br>術指導、溶射<br>材 料 等 の 販<br>売、加工業務<br>の受委託、役<br>員の兼任等 | 債務保証  | 147,212      | —  | —            |

- (注) 1 取引金額には消費税等は含まれておりません。  
2 東華隆(広州)表面改質技術有限公司に対する債務保証額147,212千円はすべて外貨建て(8,700千人民元)であります。  
3 取引条件及び取引条件の決定方針等  
金融機関からの借入金等に対して債務保証を行っております。なお、保証料は受領していません。  
4 上記以外の取引は、重要性がないため記載を省略しております。

(1株当たり情報に関する注記)

|            |         |
|------------|---------|
| 1株当たり純資産額  | 524円48銭 |
| 1株当たり当期純利益 | 70円01銭  |

(注)当社は平成30年3月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。が、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。